

循環器内科

1 スタッフ

科長（教授）	藤田 英雄
医員（教授）	坂倉 建一
（講師）	林 達哉
	陣内 博行
	牧 尚孝
	谷口 陽介
	山本 慶
（助教）	宇賀田裕介
	山本 真吾
	羽鳥 将史
	大橋 潤平
レジデント	11名

2 診療科の特徴

さいたま医療センター循環器内科のスタッフは、レジデントを含めて20人で診療体制を組んでいる。当科の特徴の一つとして、心臓血管外科との協力体制が確立されていることを挙げたい。心臓血管外科と循環器内科の病床は同じフロアにあり、また心臓カテーテルカンファランスには心臓外科医も出席し、個々の患者にとって最適の選択は何かを外科医とともに議論する土壌がある。循環器内科の固有病床数は50床であるが、多くの入院待ち患者を抱えている状況である。CCUは現在8床を循環器内科が主に使用している。急性心筋梗塞症患者は2023年は287例で、発症早期の症例には昼夜を問わず、PCIによる再灌流療法を行っている。心臓カテーテル検査は年間約1,000例を超え、インターベンション数は2023年782例と、全国の大学病院の

中でも有数の症例数を誇っている。また心不全入院患者も2023年492件に上り薬物療法・非薬物療法ともにバランスが取れ、個々のケースに応じた集学的治療体制がとれるよう構築されている。その他、心臓超音波検査は、2023年は9,241例、トレッドミルによる運動負荷試験は0例（2020年以来COVID-19のため中断）、心臓核医学検査は558例など循環器関連検査も充実している。一方、心臓リハビリテーションや冠危険因子の是正などにも積極的に取り組んでおり、入院期間中のみならず外来通院型の運動療法にも積極的である。

高度循環器医療に必要な医療機器が整備されており、冠動脈造影装置はシネフィルムレスでデジタルネットワーク化されて院内数ヶ所で随時冠動脈造影を見ることができ、症例検討や患者への説明に役立っている。2023年のカテーテルアブレーション件数は、474例であった。デバイスの植込みも多く行われており、ICD39例、CRTD20例、ペースメーカー植込み137件（新規、交換を含む）と多くの手術が行われている。非侵襲的画像診断についてもMDCTは320列の装置を備え、CMR（心臓MRI）、PETも導入され、核医学装置も最新鋭機器に更新、循環器領域での応用が期待される。

3 診療実績

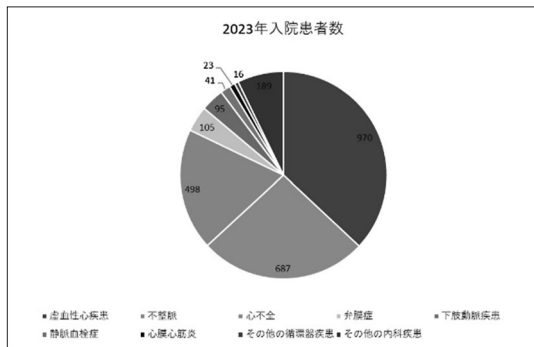
1) 外来患者の内訳

2023年の外来受診総数は27,110人で、そのうち初診患者数は1,739であった。

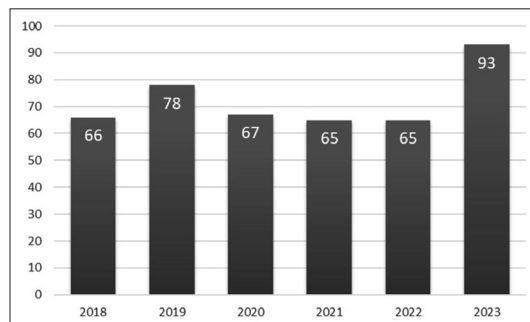
2) 入院患者の内訳（疾患別、在院日数）

総入院患者数は2,624人、平均在院日数7.5日である。

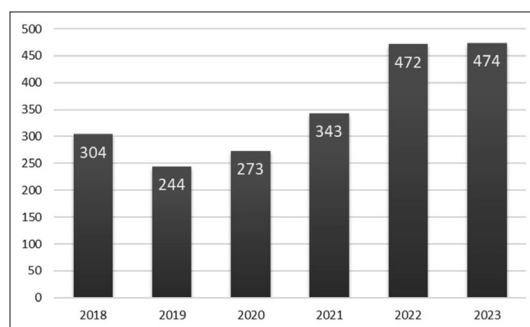
病棟入院患者原因疾患



TAVI件数（心臓外科症例含む）

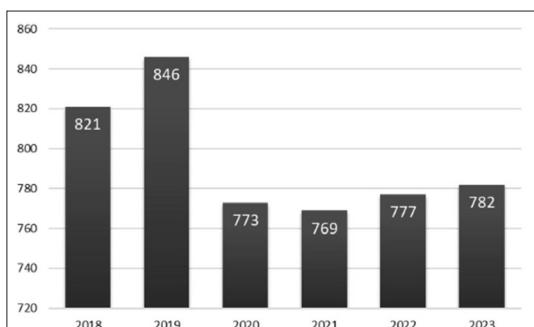


アブレーション件数とその年次推移

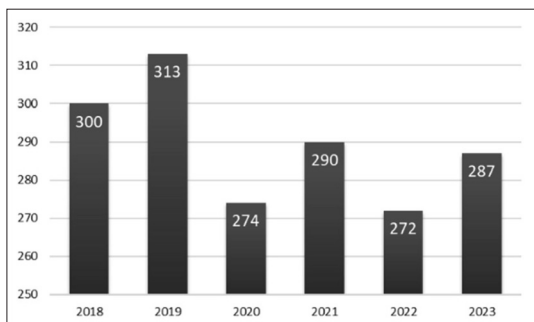


3) 治療成績（代表的疾患の短期成績）

PCI件数とその年次推移



AMI件数とその年次推移



4 カンファランス

毎日朝夕	CCUカンファレンス
火曜朝	病棟カンファレンス
火曜3時	病棟回診
夕方	不整脈カンファレンス
水曜日	リサーチミーティング
金曜夕方	外科合同カンファレンス (心臓血管外科も参加)
	TAVIカンファレンス

5 研究、学会活動など

臨床を中心に多くの研究が行われている。その内容は急性冠症候群の病態と治療・危険因子の探索、冠動脈インターベンションに関する研究、心不全の病態に関する研究、心臓リハビリテーション・運動療法に関する研究、心筋虚血の画像診断に関する研究、多施設データベース研究など多

方面にわたっている。これらの研究の成果は日本循環器学会をはじめとする国内の学会において発表された。

6 その他

さいたま医療センターは地域の急性期病院であり、その中でも循環器内科は中心的役割を果たしている。2008年10月のカテ室増設、2009年6月にはCCUの独立後、2016年からは救命救急センターが始動し、3次救急の受け入れを開始したことで、さらに多くの急性心筋梗塞患者の受け入れが可能となった。

今後も、急性疾患のみならず、循環器疾患全般について、地域における病診連携をさらに充実していきたい。また、レジデントの教育についても、専門的診療手技への早期からの参加なども含めて、レジデントがさらに魅力を感じられるものとしていきたい。